水稲の生育状況と今後の管理対策（第７号）

令和２年７月 28 日
新潟県農林水産部

〔７月 27 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　葉色は県平均で見ると指標値「並」ですが、地域差が大きく、「やや濃い」から「濃い」地域が認められます。出穂期（県平均）は、平年並の８月５日の見込みです。

新　之　助

◎　葉色は、指標値に比べ「濃い」状況です。出穂期（県平均）は、平年より１日遅い８月 11 日の見込みです。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　平年より梅雨明けが遅れ（平年は７月 24 日）、低温・少照も続いている状況ですが、７月 23 日発表の１か月予報（７月 25 日から８月 24 日まで）によると、７月末までは晴れの日が少ない見込みで、８月に入ると平年同様、晴れの日が多くなり、８月８日以降の気温は平年並または高い確率ともに 40%と予想されています。

◎　これまでの長雨・低温・少照により、軟弱・徒長傾向となっており、葉いもちの発生が各地で確認され、今後、発病の増加が見込まれます。

◎　コシヒカリでは、出穂期後の高温の影響が懸念されます。今後、最新の１か月予報（７月 30 日発表）と葉色の推移、出穂状況に注意しながら、登熟期間の高温を想定した追肥対応や、用水の供給状況に応じた水管理を適切に行う必要があります。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　多肥栽培では、いもち病の発生に注意し、穂いもちの予防防除を適切に行いましょう。

★　本年は平年に比べカメムシ類の発生が多くなっています。ゆきん子舞などの割れ籾が発生しやすい品種では、斑点米被害のリスクが特に高いため、出穂状況を確認しながら、適期を逃さず、確実に防除を実施しましょう。

★　登熟期間中の高温に対応するため、出穂期 25 日後まで飽水管理[*1]を継続して、根の活力を維持し、登熟後期の栄養を確保しましょう。

コシヒカリ

★　８月以降は高温が見込まれています。２回目の穂肥を施用していないほ場では、必ず穂肥を施用しましょう。また、２回目の穂肥以降の葉色の推移に注意し、葉色の低下が大きい場合には、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、出穂期の３日前までに追加の穂肥を施用しましょう。

・　有機質 100%肥料を穂肥に利用する場合は、肥料の特性を確認した上で、化学肥料よりも早めに施用しましょう。

・　出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力維持を図りましょう。

★　平年に比べ、主要な加害種であるアカスジカスミカメの発生が多いので、斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、計画的な除草と適期防除を徹底しましょう。

★　いもち病の発生に好適な気象条件で推移しています。ほ場を確認して、葉いもちの発生が見られる場合は、速やかに防除を行いましょう。

新　之　助

★　葉いもちの発生が各地で確認され、多発生の報告もあります。新之助はいもち病抵抗性が弱いので、病気の発生状況を確認し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行いましょう。

★　葉色の濃い地域が見られます。出穂期 12～10 日前の２回目の穂肥施用時に葉色を確認し、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、葉色に応じて施肥量を調節して、適正な出穂期の葉色（SPAD 値 34～36）に誘導しましょう。

・　全量基肥施肥*2 において、高温により後期栄養不足が懸念される場合には、栄養状態を維持するため、追肥を検討してください。

*1 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

熱中症予防

★　梅雨明け後は、厳しい暑さが見込まれます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意しましょう。

◎　今後の管理対策発信予定日　　７月 31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

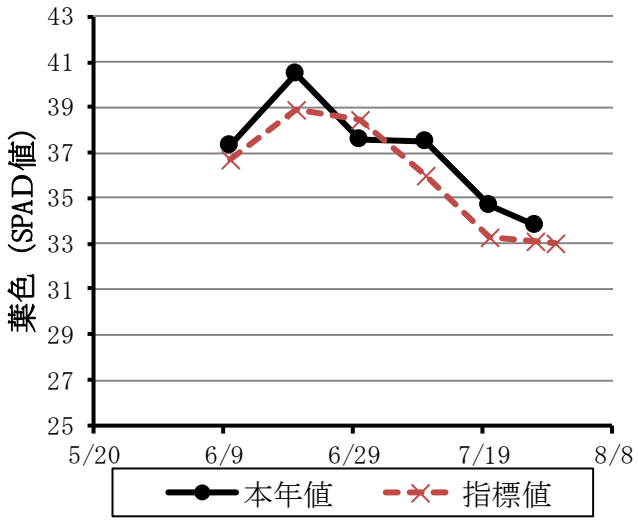
１　農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

コシヒカリ

○　指標値に比べ、葉色は「並」の状況ですが、地域差が大きく、「やや濃い」から「濃い」地域が認められます。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
葉色（SPAD 値）	33.8	33.1	並	0.7

注）県内全域の 116 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



コシヒカリの葉色推移（県全体）

生育調査ほにおけるコシヒカリの幼穂形成期の生育

地域	幼穂形成期（月日）			草丈（cm）			茎数（本/㎡）			葉色（SPAD 値）		
	本年	平年差	前年差	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標差	前年差
下越	7/16	0	0	71	100	106	402	97	88	34.0	-0.3	1.4
新潟	7/15	1	2	72	101	107	395	93	93	36.7	2.4	3.4
中越	7/13	-1	2	74	106	106	413	96	86	37.3	3.2	-0.8
魚沼	7/11	-3	0	69	97	105	497	113	99	36.2	1.1	-0.6
上越	7/9	-3	-2	68	93	101	467	102	88	35.9	1.7	-0.1
佐渡	7/17	1	2	81	113	111	568	126	94	41.9	7.9	4.0
県全体	7/13	-1	1	72	101	106	446	103	91	36.5	2.1	0.8

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 12 日、栽植密度 17.5 株/㎡）、平年値は H21～R1 年までの 10 か年の平均

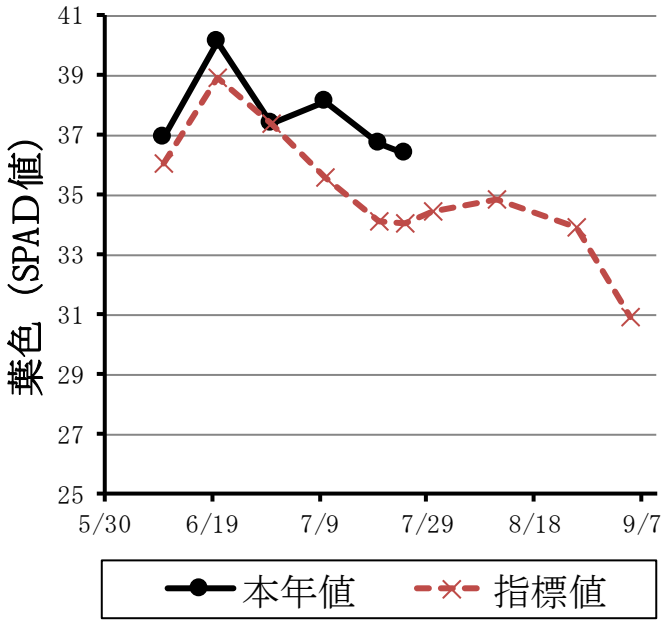
◎　幼穂形成期の草丈及び茎数は指標値並で、色は濃い状況でした。
◎　幼穂形成期から判断すると、出穂期は平年並の８月５日頃と見込まれます。

新之助

○　指標値に比べ、葉色は「濃い」状況です。ただし、地域別で見ると「並」から「濃い」と地域差が大きい状況となっています。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
葉色（SPAD 値）	36.4	34.1	濃い	+2.3

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



新之助の葉色推移（県全体）

生育調査ほにおける新之助の幼穂形成期の生育

地域	幼穂形成期（月日）			草丈（cm）			茎数（本/㎡）			葉色（SPAD 値）		
	本年	平年差	前年差	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標比(%)	前年比(%)	本年	指標差	前年差
下越	7/22	0	1	67	108	118	428	81	92	34.7	0.7	3.6
新潟	7/22	1	1	70	109	117	526	97	96	39.0	5.0	6.7
中越	7/20	2	3	67	106	106	470	81	90	36.4	2.1	1.8
魚沼	7/20	-1	-1	68	99	106	539	104	102	35.8	0.6	3.1
上越	7/17	-1	-1	65	101	102	602	111	109	34.9	0.9	0.2
佐渡	7/24	1	2	82	128	134	575	99	97	41.8	8.8	8.6
県全体	7/20	0	1	69	106	111	526	97	98	36.9	2.7	3.5

注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）、平年値は H28～R1 年までの４か年の平均

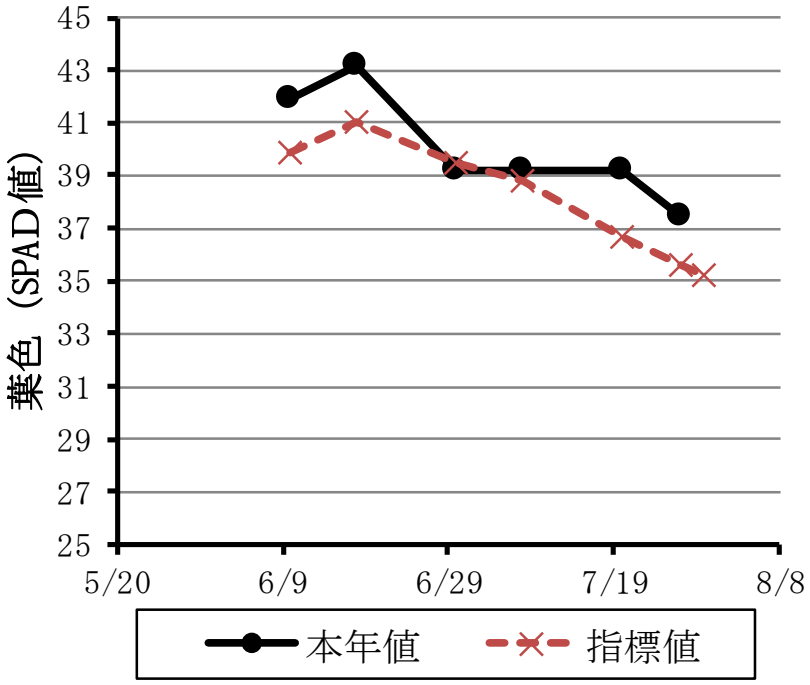
◎　幼穂形成期の草丈はやや長く、茎数は指標値並で、葉色は濃い状況でした。
◎　幼穂形成期から判断すると、出穂期は平年並の８月 11 日頃と見込まれます。

こしいぶき

○　**指標値に比べ、葉色は「やや濃い」状況です。**

項目	**本年値**	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	**37.4**	35.6	やや濃い	+1.8

注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡
注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/14)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



こしいぶきの葉色推移

こしいぶきの幼穂形成期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	７月６日	＋２日	±０日
出穂期	７月 28 日	＋２日	±０日

注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡
注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/14)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

◎　**出穂期は平年並の７月 28 日でした。**

ゆきん子舞

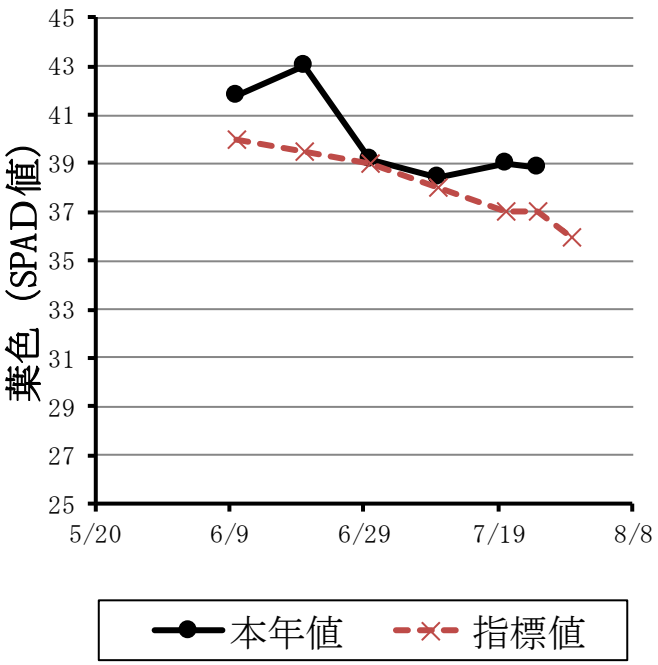
○　指標値に比べ、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
葉色（SPAD 値）	38.8	37.0	やや濃い	+1.8

注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a(前作枝豆）、穂肥窒素成分量 2.3＋2.3kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/6)

注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



ゆきん子舞の葉色推移

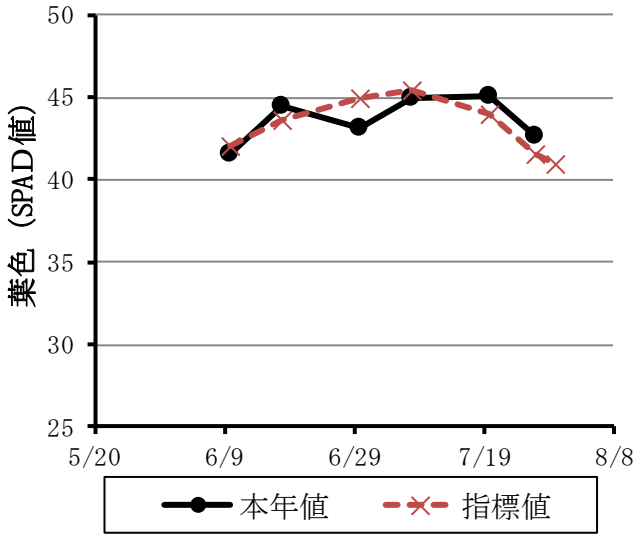
◎　出穂期は７月 24 日でした。

つきあかり

○　**指標値に比べ、葉色は「やや濃い」状況です。**

項目	**本年値**	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	**42.7**	41.6	やや濃い	+1.1

注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡
注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0＋3.0kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/7)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



葉色の推移

つきあかりの幼穂形成期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	６月 28 日	±０日	－
出穂期	７月 23 日	＋４日	－

注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡
注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0＋3.0kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/7)
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

◎　**出穂期は前年より４日遅い７月 23 日でした。**